

主日礼拝

2022年07月31日
午前10時30分

前奏 「感謝に満ちて」(J.S.バッハ)

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたし
のもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげ
よう。」 マタイによる福音書11:28(讃21-7)

頌美 27 「父・子・聖霊」

リタニー【平和を祈る】

司式者：平和を実現する人々は、幸いである、
と言ってくださる主よ、わたしたちは、
それぞれ弱さを抱えています。

会衆：あなたの言葉を素直に聞くことが
できないときがあります。

司式者：自分と向き合えないときや、
何をやっているのか、わからなく
なるときがあります。

会衆：隣人とわかり合おうとしてすれ違い、
愛し合おうとして傷つけ合います。

司式者：人を責めることや、攻撃することでしか
自分を守れないときがあります。

一 同：しかし主よ、わたしたちはあなたの
愛を知っています。

司式者：ほんとうは仲よくできる、ほんとうは
わかり合える、

会衆：ほんとうは愛し合えるのです。

一 同：主よ、あなたの十字架の前に、
わたしたちを、そろって立たせてください。

司式者：ゆるし合う勇気と、認め合う力を
あたえてください。

会衆：平和はまさにあなたにあります。

一 同：主よ、あなたに信頼して、足元から
平和を求めます。

献金 ご用意のある方は、神さまへの感謝の気持ちを
もっておささげください。

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあがめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。アーメン。

聖書 マルコによる福音書 14:3~9

新約(新共同訳)P90~P91

イエスがベタニアで、規定の病を患っているシモンの家にいて、食事の席に着いておられたとき、一人の女が、純粋で非常に高価なナルドの香油の入った石膏の壺を持って来て、その壺を壊し、香油をイエスの頭に注ぎかけた。すると、ある人々が憤慨して互いに言った。「何のために香油をこんなに無駄にするのか。この香油は三百デナリオン以上に売って、貧しい人々に施すことができたのに。」そして、彼女を厳しくとがめた。イエスは言われた。「するままにさせておきなさい。なぜ、この人を困らせるのか。私に良いことをしてくれたのだ。貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときに良いことをしてやれる。しかし、私はいつも一緒にいるわけではない。この人はできるかぎりのこととした。つまり、前もって私の体に香油を注ぎ、埋葬の準備をしてくれた。よく言っておく。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」

祈禱

賛美 567 「ナルドの香油」

Master, no offering
詞: Edwin P. Parker, 1836-1925
LOVE'S OFFERING
曲: Edwin P. Parker, 1836-1925

- 1 ナルドの香油 そそいで
主に仕えた マリアを
思いおこし、私の愛
ささげます、主イエスよ。
- 2 弱い人に 力を、
暗い世には 光を、
わけあうため この私を
ささげます、主イエスよ。

- 3 嘆く人に 望みを
涙の地に 平和を
告げるために この私を
ささげます、主イエスよ。
- 4 この世のわざ 果たして
主のみもとに 帰る日、
平和のうちに 主よ、私を
受け入れてください。

説教 「記念として語り伝える」

被爆ヴァイオリンによる奉獻演奏

「ジーグ」無伴奏パルティタ 3番 より (J.S.バッハ)

演奏者: 栗田智子

賛美 451(1,2,4) 「くすしきみ恵み」

Amazing grace! How sweet the sound
詞: John Newton, 1725-1807

AMAZING GRACE (NEW BRITAIN)
曲: Virginia Harmony, 1831

- 1 くすしきみ恵み われを救い、 3 思えば遇ぎにし すべての日々、
まよいしこの身も たちかえりぬ。 苦しみ悩みも またみ恵み。
- 2 おそれを信仰に 変えたましい 4 わが主の み誓い 永遠にかたし、
わが主のみ恵み とうときかな。 主こそはわが盾、つきぬ望み。
- 5 この身はおとろえ、吐を去るとき、
よろこびあふるる み国に生きん。

派遣

- 司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
- 会衆 わたしがここにあります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

後奏 「トッカータ へ長調」

(D.ブクステフーデ)

司式 要田 悟史
説教 向井 希夫牧師
奏楽 高橋 孝子

※お立ちになるのが困難な方は、

座ったままで礼拝をお守り下さい。

ミニコンサート



曲目

- 「ピアノとヴァイオリンのためのソナタ 変ロ長調」
(モーツアルト)
- 「ロマンス」 (ベートーヴェン)
- 「メロディー」三つの小品から (チャイコフスキー)

ヴァイオリン: 栗田智子さん

東京藝術大学卒業後、オランダアムステルダム音楽院でヘルマン・クレバース氏に師事、卒業。その後アムステルダムのコンセルトヘボウ管弦楽団に入団、今に至る。

ピアノ: 戸田真理さん

京都市立芸術大学卒業。広島文教大学非常勤講師。

広島女学院所蔵「被爆ヴァイオリン」について
奉獻演奏で用いられるヴァイオリンは、セルゲイ・パルチコフ (1893年~1969年・白系ロシア人) が所有していたものです。パルチコフは、ロシア中部カザン近郊で生まれ、幼少期からヴァイオリンを習っていました。ロシア革命を逃れ、1922(大正11)年に日本に亡命、広島にたどりつけます。広島市の新天地にあつた洋画専門映画館「日進館」専属管弦楽団のメンバーとなりました。パルチコフのヴァイオリンの評判は、広島女学校(現女学院中高)のゲーンス校長の耳に届き、1926年同女学校の教師に就任、ヴァイオリンとオーケストラ、合唱の指導を始めます。クリスマス会に向けて、ハレルヤコーラスを厳しく指導されたと生徒の手記に残っています。

1945年8月6日、爆心地から約2.5キロ離れた現在の広島市東区牛田旭の自宅でパルチコフは家族と被爆。直後壊れた家から愛用のヴァイオリンを探し出しました。戦後、一家は東京を経て、渡米。パルチコフ死後、1986年、長女カレリアがこの被爆ヴァイオリンを広島女学院に寄贈、2012年に修復され音色を取り戻しました。